

表 3：静岡県における外国人登録者数上位 10 か国（速報）

（順位は平成 21 年 12 月末の登録人員による。）

		21 年 12 月末	20 年 12 月末	19 年 12 月末
	国名・合計	92,945	103,308	101,505
1	ブラジル	42,513	51,563	51,900
2	中国	13,655	13,707	12,669
3	フィリピン	12,205	12,563	11,850
4	韓国・朝鮮	6,233	6,403	6,467
5	ペルー	6,132	6,564	6,624
6	インドネシア	2,590	2,612	2,429
7	タイ	2,049	2,075	1,940
8	ベトナム	1,185	1,242	1,157
9	米国	835	827	826
10	アルゼンチン	349	401	427

全体的に、日本における外国人登録者数の動向を調べると、特にブラジル国籍の人々が減少していることが分かるが、これはブラジル人の雇用先としてはその多くが自動車や電化製品の生産ラインに従事していたことが背景にある。この 2 つの業界は主に輸出製品であった

## 2) 在日ブラジル人コミュニティにおける子ども社会的脆弱性と感染症への懸念

多くのブラジル人が帰国した一方で、他方では、在日ブラジル人の多くが失業し、正確な数字は確認できないが、例えば浜松におけるブラジル人の失業者は 80%にも足している<sup>9</sup> という報道もある。そして、その多くが家族を持つ大人であり、大きな問題となっているのが子どもの状況である。

昨年度までの研究調査により、教育面においては在日ブラジル人の子ども・若者が置かれている状況について大きく分けて、3つのグループに分れ、

ア) 日本の学校に通っている層、

イ) ブラジル人学校に通っている層、

ウ) 学校には通っていないが、おそらく大人と同じような立場で仕事をしている層が存在することが分かった。

世界的不況により、特に変化したのがブラジル人学校に通う子ども・若者層である。これは、ブラジル人学校は日本の法律における学校法人ではなく、学校の経営は全てが生徒の授業料で成り立つ学校であるため、保護者には子ども一人当たりの月謝が 3-5 万円のコストがある。従って、保護者が失業することは、授業料を払えないことに繋がる。

事実、文部科学省の調査により、2009 年の 2 月の時点において、ブラジル人学校におけ

る就学児の約35%が学校を止めていて、そのうち、4割が帰国を理由に退校、そして、約4割が自宅・不就学状況になり、ブラジル人学校を退校した児童の僅か1割が日本の通常の学校に転校していたことが分かった（表5）。

このように、最近1-2年で、滞日ブラジル人コミュニティの現状は劇的に変化し、失業→生活基盤の不安→子どもの不就学→子ども将来への不安→家族内での葛藤→子どもへの悪影響→子どもの相対的な脆弱性の拡充→早すぎる妊娠・性感染症などへの脆弱性の増と言う悪循環に陥ること懸念が多いにある。

脆弱な立場に置かれている人々、特に out of school の若いそうにおいては、非行、ドラッグ、性産業、などにながれる可能性は高いことは一般的に知られている。

表5：文部科学省による「ブラジル人学校等の実態調査研究」 - 平成21年3月報告

	H20. 12/1	H21. 2/2	
ブラジル人学校数	90校	86校	
ペルー人学校数	3校	3校	
計	93校	89校	

	H20. 12/1	H21. 2/2	増減数 (率)
調査対象校数	90校	86校	
回答校数	67校	67校	
有効回答数	58校	58校	
就学前教育段階	1,330人	600人	-730人 (▲54.9%)
基礎教育段階	4,406人	2,778人	-1,628人 (▲36.9%)
中等教育段階	637人	503人	-134人 (▲21.0%)
計	6,373人	3,881人	-2,492人 (▲39.1%)

▲34.9%

理 由	数 (率)	
本国に帰国	722人 (42.0%)	
公立学校へ転入	160人 (9.3%)	
他のブラジル人学校等へ転校	53人 (3.1%)	(推計値・注)
自宅・不就学等	598人 (34.8%)	10.2% (就学前教育 (自宅)) 24.6% (基礎・中等教育 (自宅・不就学等))
不明	185人 (10.8%)	
計	1,718人 (100.0%)	

※平成20年12月1日現在と平成21年2月2日現在の両方の在籍者数を回答した58校中42校の回答

出典：文部科学省による「ブラジル人学校等の実態調査研究」 - 平成21年3月報告

昨年度の報告にも記載されているが、ブラジル人学校に通っている層については、日本の教育カリキュラムにもアクセスできない、また、ブラジル国カリキュラムに沿って教育

を受けているが、母国のような HIV 関連の予防教育へはアクセスできない、と言う状況であることも明らかになった。

また、早すぎる妊娠が目立ち、セクシュアルヘルスや HIV 関連の情報獲得源は学校であることが分かった。

そして、昨年度の調査より、直接的な介入の「ワークショップ」そして「パンフレット」、両方を介入ツールを複合的に使用することによって、HIV 関連の情報や態度に関して全体に浸透しやすいことが分かった。また、ブラジル人学校の生徒において、「保護者」は大事な相談相手であることが示されたことから、保護者へのアプローチも重要であることが考えられる。

しかし、現在の滞日ブラジル人コミュニティそして、ブラジル人学校の激しい変化の中、直接的なワークショップなどは困難であり、また、大人も仕事を求め、移動が一層激しくなっていることがエスニックメディアの報道や都道府県の都道府県における外国人登録数の推移で知ることができる。

この環境のなか、場所を問わないインターネットによる予防啓発が非常に有利であると考えられる。また、ブラジル人コミュニティそして、若い層におけるインターネット使用率が 90%以上で非常に高く、接続時間は平均的に 2-4 時間であると今までの調査研究で分かった。

こうした状況を踏まえて、インターネットによる HIV 関連の予防教育が非常に重要であることが考えられ、今年度はそのホームページ作成に力を入れた。

## 「目的」

ファーストオーディエンスである若者層を対象としたホームページ作成：保護者の仕事の都合により日本国内を転々とし、または、学校に通えない状況の中、どこにいても情報獲得が可能な環境づくり、また、在日ブラジル人若者のニーズの沿った情報の提供、そして、若者同士が意見などを寄せ合い、独自のホームページづくりを目的としている。

セカンドオーディエンスである大人層を対象としてホームページ作成：若者層をも学校や友人に並んで、重要な相談相手である保護者にも子どもと対話できるよう、正しい情報などを日本のどこにいても獲得できるような環境づくりを目的としている。

## 「方法」

### 1) 若者向けのホームページ作成：

若者のホームページ作成に当たって、最も重視されたのはピアの参加であった。HIV 予防関連では、介入対象者、つまりピア (= 同士) の参加が非常に重要であることは多くの文献から明らかになっている。当研究グループでも、若者の間に浸透するためには、彼等の意見やセンスが必要不可欠であることを認識し、ホームページの計画段階から対象者の参加を促してきた。

若者ピアの参加：

1- 2006-7年度において：ブラジル人学校の生徒を対象に質的及び量的調査を行った（内容及び結果等は19年度の報告書参照）

2- 2008年度において：HIV関連のワークショップ、パンフレット配布などを行った（ワークショップ及びパンフレットの内容、そして介入効果評価については20年度報告書を参照）

3- 2009年度において：

ブラジル人学校の生徒を対象に HIV 関連のワークショップ、パンフレット配布および、ホームページ作成におけるワークショップを行った。

HIV関連ワークショップにおいてはベースライン調査を行った上で内容等を検討し実施した。パンフレットは昨年作成のものを配布した。

また、ホームページ作成における文書づくり及び映像ツールに関するワークショップを実施した。1分程度の映像の作り方のワークショップを行った。その内容は次の通りである：

- a. ビデオ等における撮影の方法：主演者のポジション、光の使い方、撮影角度、撮影移動を速度、カットの仕方、ズームの使い方、人と風景の割合など
- b. ナレーション方法：文書の切り方、発生、口の動き、表情の使い方など
- c. 脚本の基本：伝えたいものは何か、ストーリー作り、始まり・中間・集結の組み立てかた、興味引くためのポイントなど

4- ホームページにおいて、自由に投稿し、ページへのアップを促した（管理者に投稿し、修正等が必要な場合は投稿者と連絡を取り、修正等を行う方法を取った）

5- 12月1日の世界エイズデーにおけるビデオコンクールの呼びかけをした

また、当研究グループの若者向けホームページの特徴は、「日本在住のブラジル人若もの」という環境である。HIV関連の情報提供しているホームページは数多くブラジル国内に存在しているため、情報獲得は比較的簡単である。しかし、日本に数年在住している子どもにとって、ブラジルは理想（想像）の世界にあり、身近でありながら、遠い概念である（当研究班の18-19年度報告書を参照）。また、ポルトガル語力の低下し、日本語が混ざっていく現象（ガンバル、ダイジョウブ、ヤキン、テイジ、など）もおきるため、より浸透性を高めるため、日本の情報、日本語を交えながらホームページ作成にあった。

## 2) 大人用ホームページ作成：

主に、新聞記者の経験をもつ研究員が担当し、当研究班における過去の調査結果を基に作成した。

## 「結果」

本年度、7月にブラジル人学校3校、合計5つを対象にHIV関連及びホームページ作成ワークショップの実施した。実施場所と参加人数は下記の通りである（図3-10）：

1- 7月6-7日：静岡県掛川市（Colégio Nippo Brasileiro - Kikugawa）

年齢別に2つのグループに分けてワークショップを実施した。13-14歳の男女20名、そして、15-18歳の男女16名

2- 7月16日・21日：静岡県磐田市（Escola Nippobrasileira - Iwata）

年齢別に2つのグループに分けてワークショップを実施した。13-14歳の男女24名、そして、15-18歳の男女18名

3- 7月24日・31日：茨城県下妻市（Escola Pingo de Gente）ワークショップは1つのグループで14-18歳の男女12名が参加した。

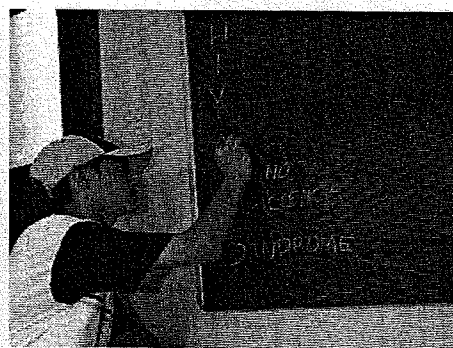


図3：左（掛川市 Colégio Nippo Brasileiro の玄関）

図4：右（掛川市 Colégio Nippo Brasileiro 参加型ワークショップの様子）



図5：左（掛川市 Colégio Nippo Brasileiro ワークショップ参加者、15-18歳のグループ）



図6：右（掛川市 Colégio Nippo Brasileiro ワークショップ参加者、13-14歳のグループ）



図 7 : 左 (磐田市 Escola Nippo Brasileira ワークショップ参加者、13-14 歳のグループ)

図 8 : 右 (磐田市 Escola Nippo Brasileir あワークショップ参加者、15-18 歳のグループ)



図 9-10 (茨城県下妻市 Escola Pingo de Gente ワークショップにおけるグループディスカッションの様子)

#### 1) 若者向けのホームページ作成 :

7月14日に [www.vidadolescente.sakura.ne.jp](http://www.vidadolescente.sakura.ne.jp) を立ち上げ、改善を繰り返してきた。ホームページの名前は13歳の女子学生が考えたものであり、ポルトガル語ので「思春期人生」という意味である。

ホームページ作成において、言語はポルトガル語を使用した。日本国内の情報、そして、日本の文化や習慣などを考慮し、外国籍で日本に住んでいる若者である視点を重要視した。

さらに、ワークショップにて質問及び取り上げて欲しいテーマとして提出された様々な内容を基本データとして使用した。また、シンプルで、見やすく、そして様々な環境のPCでも見られるよう、重たくないものに心がけた。に内容は次の通りである :

[Default page - main index] (図 11)

a. 「ロゴマーク」 ロゴマークはホームページ上で適応できるものをいくつか提出、最終的に名称にあったものを学校の生徒たちに選んでもらった。明るさと多様性を強調した

ものになった。

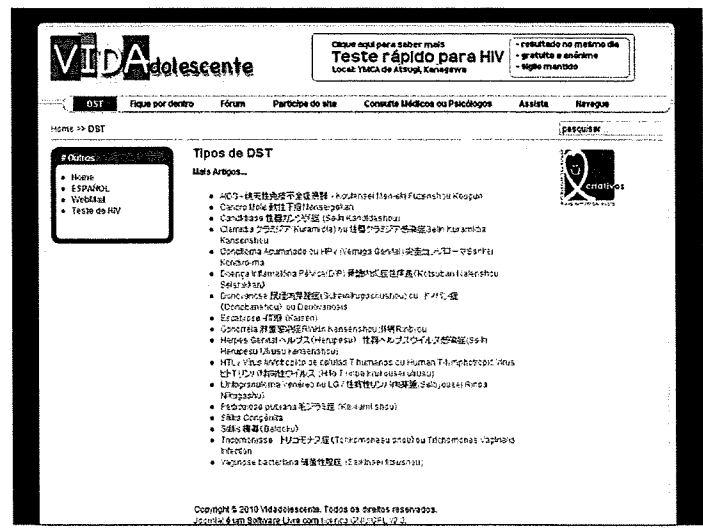
b. 日本国内では唯一神奈川県が実施している外国語における HIV 迅速検査サービスの情報を記載している。

図 11 : Vidadolescente ホームページのデフォルトページ



c. 「STD 関連の情報」 主な性感染症の情報をアップしたが、ポルトガル語の名称に加えて、日本語訳をつけて、さらにその漢字とローマ字での読みからを記載した。(図 12)

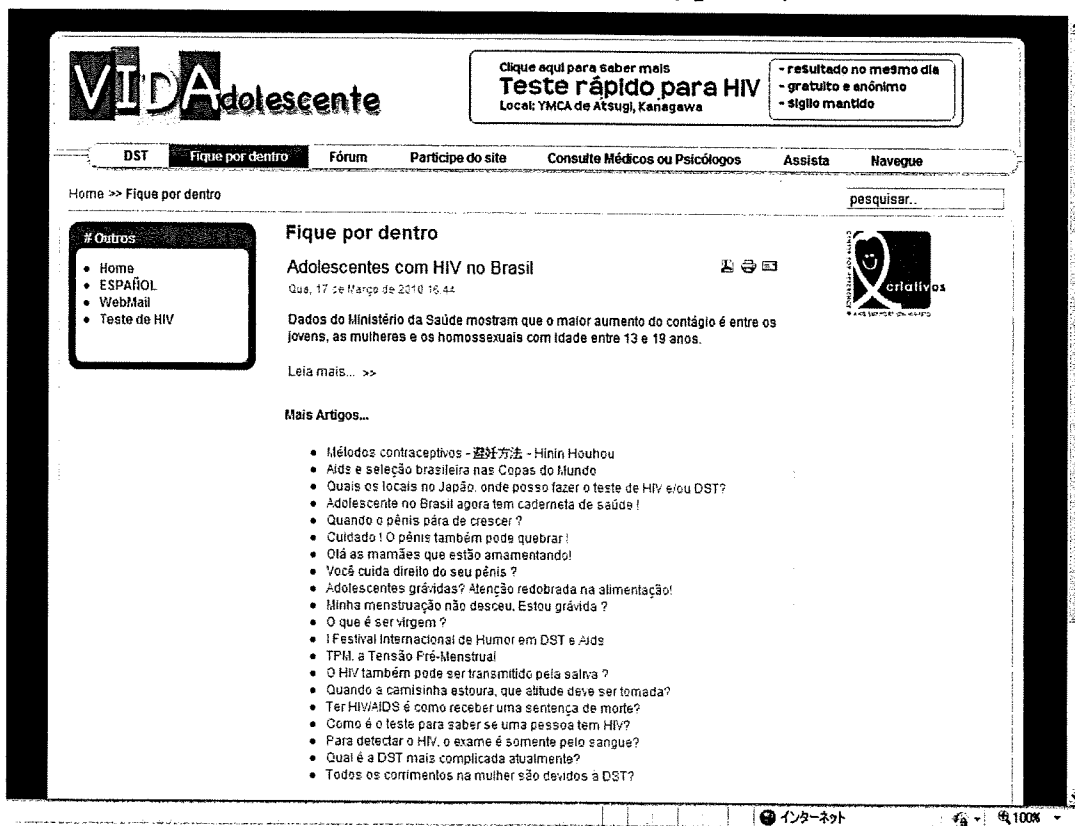
図 12 : Vidadolescente ホームページ : STD 関連の情報 (ポルトガル語・日本語・ローマ字)



d. 「Fique por dentro」(訳=内輪の情報、知っておこう)のコーナーでは思春期や性感染症に関する様々情報を常時アップし、日本国内に限らず、ブラジルや世界のものも入っている。

例)「避妊方法について」、「サッカーW杯においてブラジル代表はHIVキャンペーン用のユニフォームを着る」、「日本では保護者付き添いがなくてもHIV検査できる?」、「月経前の症候群」、「全てのおりもはSTDでしょうか?」、「生理がこなかった、妊娠かな?」、「コンドームが破れたどうすればよいのか?」、「授乳中のお母さんへ」、「処女-ヴァージンであることはどういうこと?」、「現在、一番厄介なSTDはどれ?」、「ブラジルにおけるHIVに感染しているティーンネージャーはどうしている?」など、60以上のアイテムをアップし、日々更新、追加などを行っている。(図13)

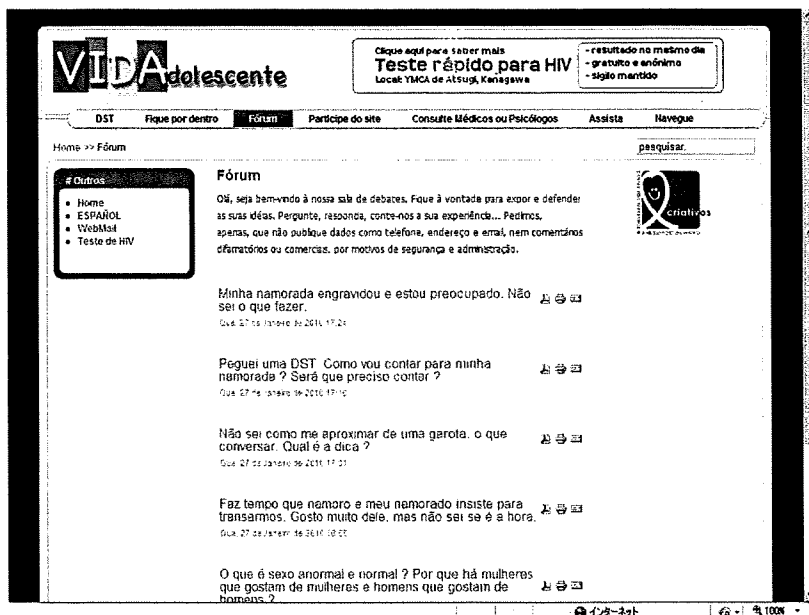
図13: Vidadolescente ホームページ:「知っておこう」コーナー



e. 「フォーラム」 フォーラムは2010年1月に開設し、メールによる相談をもとにテーマを設定したが、周知がされていないため、まだ使用されていない状況である。レスポンスは閲覧し、誰でもが読めるようになるが、個人的な内容であれば、管理者が個人メールにレスポンスを送る仕組みにしている。(図14)



図 14 : Vidadolescente ホームページ : 「フォーラム」 コーナー



f. Teenager のスペース「参加しよう」 このコーナーは若者が文書を書き、投稿するコーナーである。現在、約 20 作投稿されている。投稿は管理者へ行き、管理者（当研究メンバー）が文法やスペルなどのチェックをし、そして、内容的に他者を傷つくものではないことを確認した上、修正カ所があった場合は投稿者へ連絡を取り、修正を行ってもらい、ページへアップする方法を取った。

投稿された文書は興味深く、HIV や STD 関連のみ限らず、現在彼等が生きている現状を反映したものも多く含まれていた。

投稿文書の例：「危機について（経済危機）」、

「インターネットは思春期の人にとってとても重要である」、

「残念だが、日本では未来がない」、

「自分に自信をもてば、他人が言うことに耳を向けない」、

「父親とは母親が足りないところを支えることである」、

「ドラッグを手に入れるのが簡単になっている」、

「愛は様々な意味をもつ」、

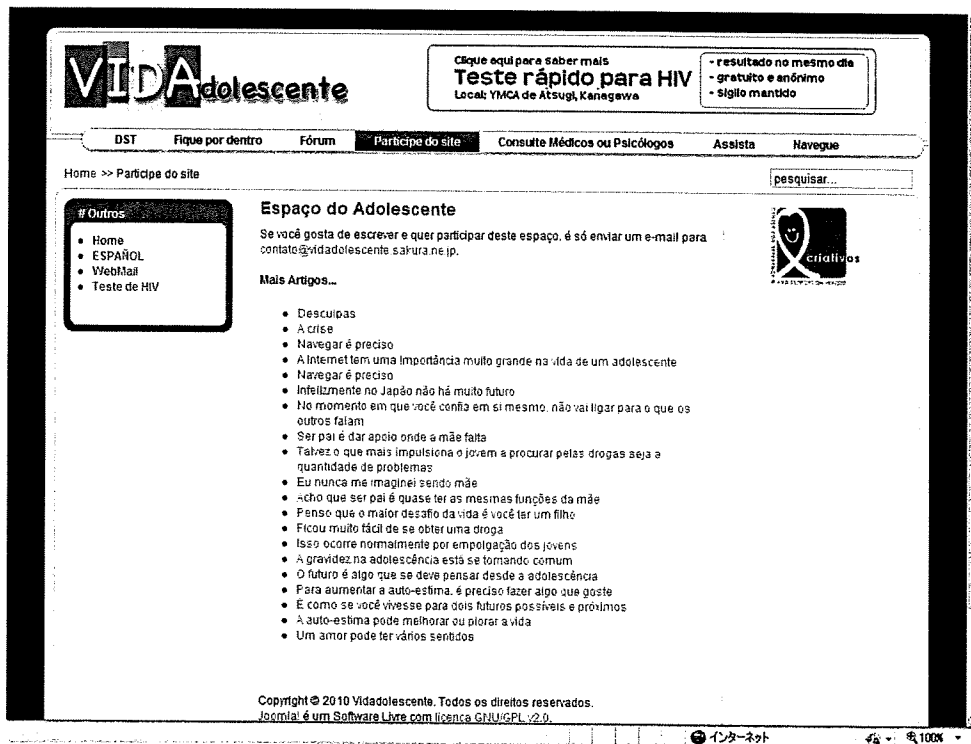
「それは、若者のいきよいから起きる（コンドームを使用しないこと）」、

「私はまだ母親になる覚悟ができていない」、

「最大な挑戦は子どもを産むことであると思う」、

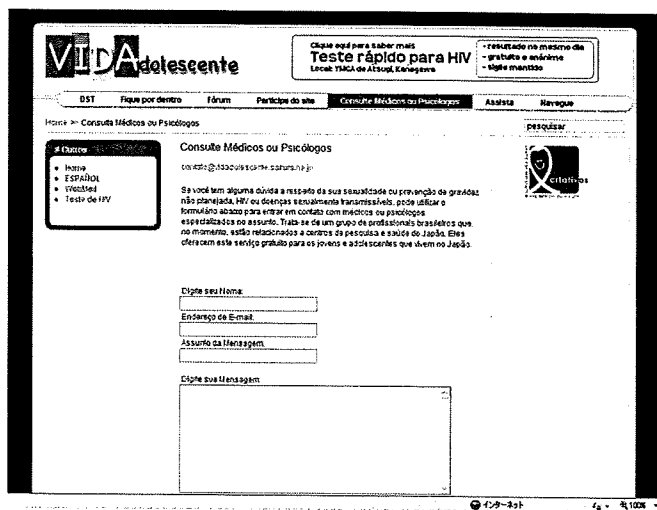
「ドラッグへ手を出すのは、孤独と問題のありすぎだと思う」など。（図 15）

図 15 : Vidadolescente ホームページ : 「Teenager のスペース」



g. 「専門家に聞こう」 このコーナーは医療・心理・社会福祉における疑問に答える場所である。合計 4 件の相談があり、次の通りであった：「初めての性交渉でコンドームが破れたが、妊娠の心配をしている」（女性）、「HPV について新聞等で読んだが、もっと知りたい」（女性）、「浜松で HIV 検査をしたいが、場所が分からない」（男性）、「自身のブログにリンクをしたいが許可は可能か」（男性）。(図 16)

図 16 : Vidadolescente ホームページ : 「専門家に聞こう」



h. 「見る」 このコーナーでは若者が作ったビデオをアップし、視聴可能にする目的であるが、加えて、主にブラジルの HIV 予防キャンペーンのビデオもアップしている。

そして、2009 年のエイズデーキャンペーンとして、ビデオコンクールを実施し、1 つの作品が投稿され、それが非常に良いものであったため、受賞し、ホームページにアップした。

磐田市の学校の生徒が作成した予防メッセージのビデオは 92 回再生されている。メッセージとしては「情報を得ることはとても重要で、ためになる」また（図 17）、下妻市の学校の生徒が作成したビデオは 95 回再生され、メッセージとしては「予防しよう、コンドームを使おう」で、コンドームのイメージを見せている。視聴層は男性で 13-17 歳の層であった（図 18）。

そして、エイズデーのコンクールへ投稿があったビデオは、愛知県のブラジル人学校で勉強するの 15 歳の男子生徒からであった。メッセージには「日本でも HIV が流行している」、「皆が予防しなければならい」、「HIV が関しない方法」、「決め付ける前に正しい情報を得ることが重要（偏見について）」であった。（図 19）

図 17: Vidadolescente ホームページ: 「見る」コーナーへアップされている磐田市のブラジル人学校の学生が作ったビデオの 1 ショット



図 18 : Vidadolescente ホームページ : 「見る」コーナーへアップされている下妻市のブラジル人学校が作成したビデオの 1 ショット

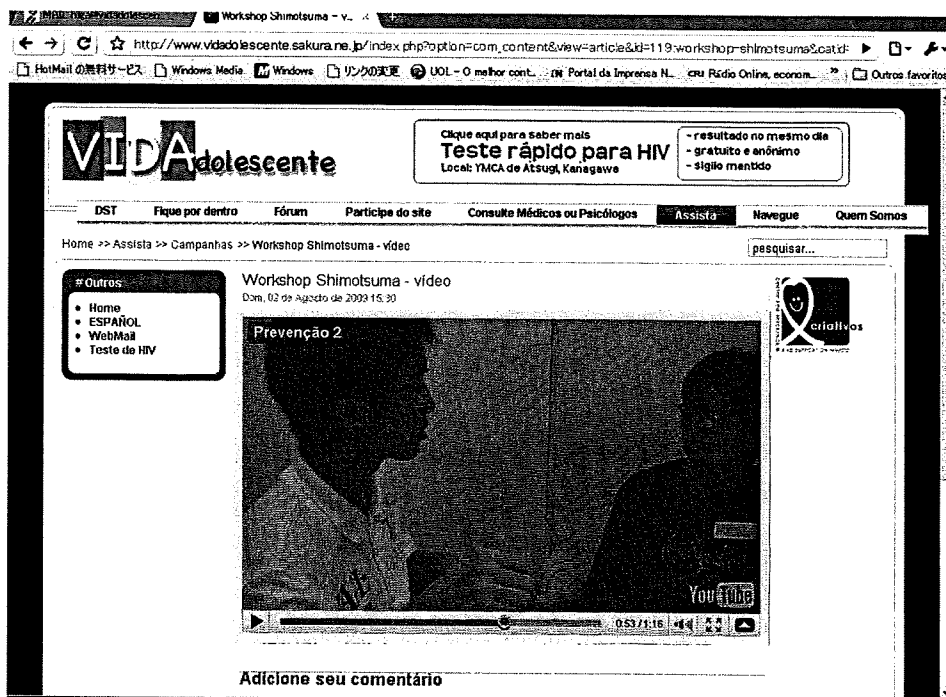
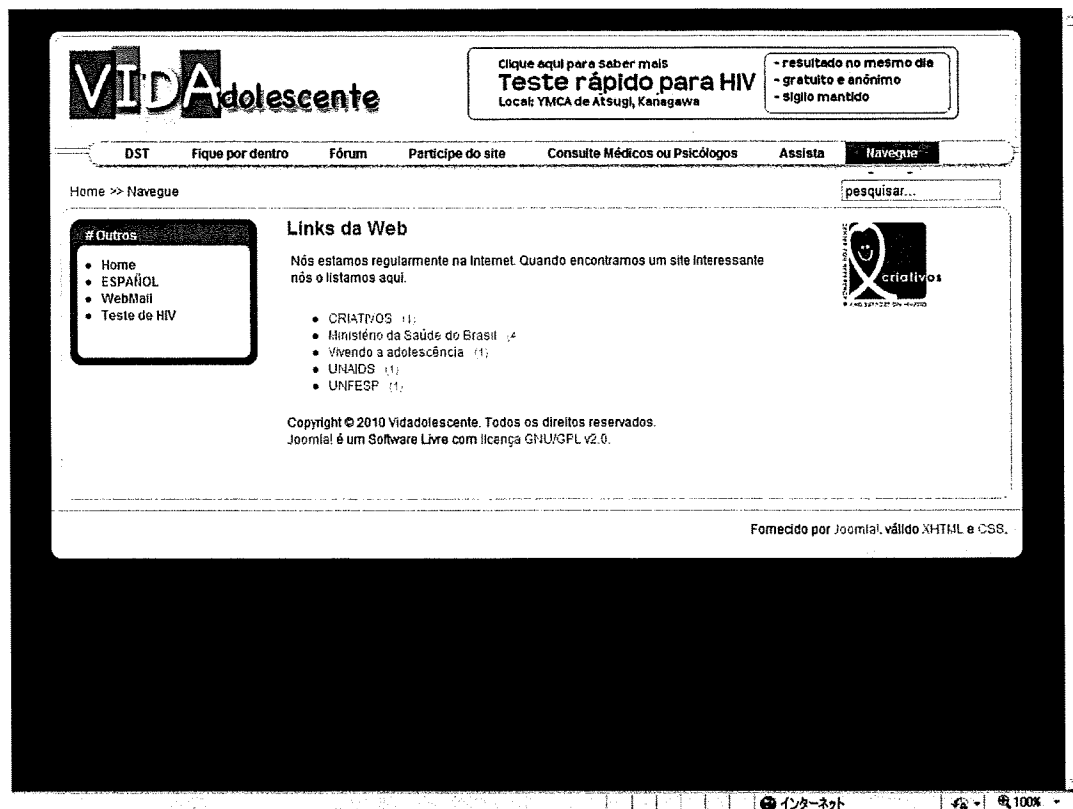


図 19 : Vidadolescente ホームページ : 「見る」コーナーへアップされている「世界エイズデー」の予防キャンペーンにおける投稿されたビデオの 1 ショット



i. 「サーフィン使用」 このコーナーはリンクコーナーである。リンク先は主にポルトガル語のものを選び、当研究グループのメンバーが所属している CRIATIVOS の HP、ブラジル国の保健省、UNAIDS、保健省のティーンネージャー向けの HP などを紹介している。(図 20)

図 20 : Vidadolescente ホームページ : 「リンク」 ページ



[main page - その他]

a. 「スペイン語のページへのリンク」 在日ブラジル人コミュニティーは他のラテンアメリカ諸国の方々との交流が大きく、若者のグループでもスペイン語系の若者が加わっていることがしばしばあるため、HIV 関連の情報のみ、スペイン語へ翻訳しアップしている。

b. 「ニュース」 ここでは日本の最新情報、HIV 検査場所、日本のコンドームについてなどアップしている。

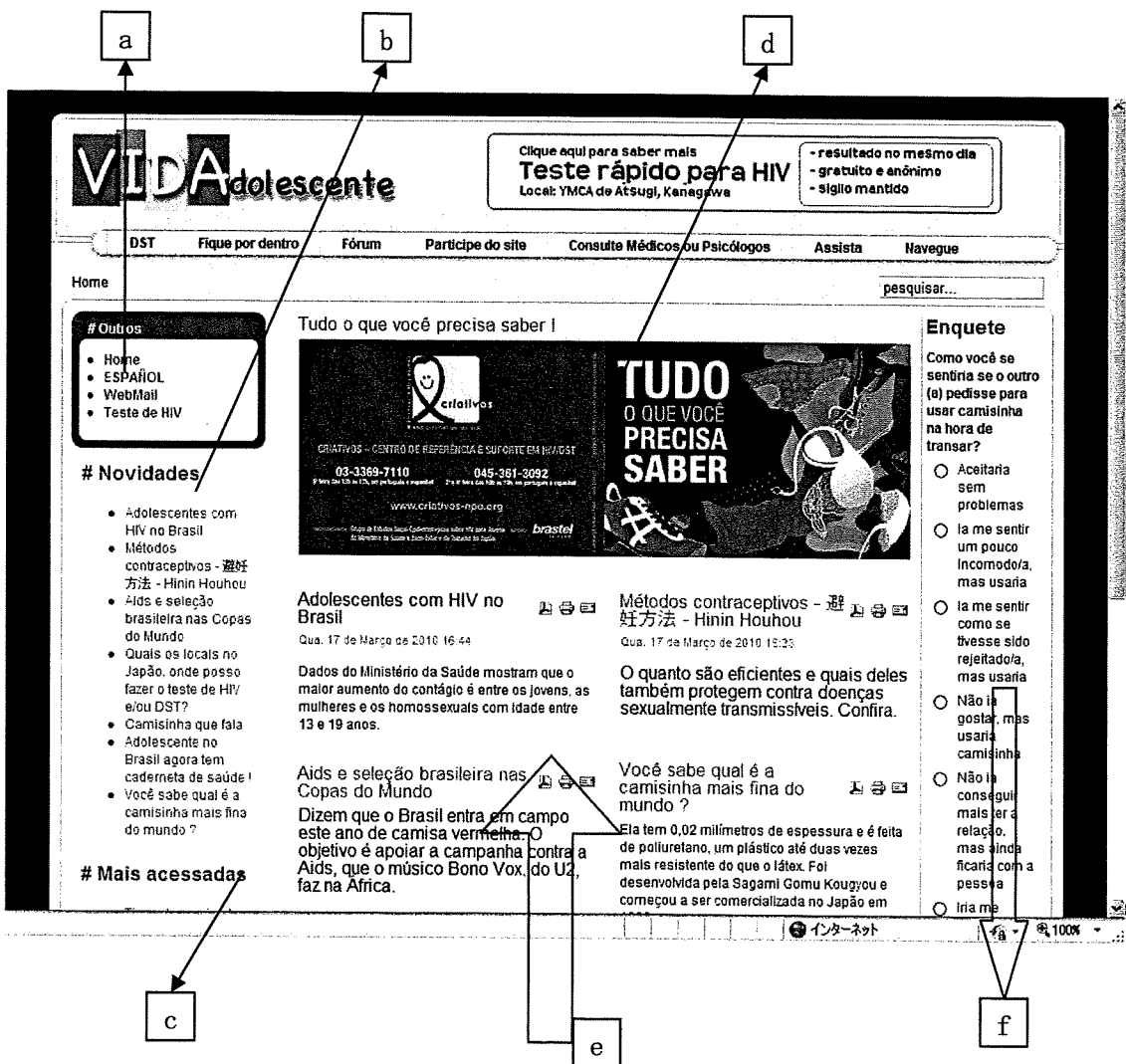
c. 「最もアクセスが多い」 ここでは、HP における最も読まれているテーマをアップする。全体で最もアクセスされているページは「日本のコンドームの紹介」である。そして「STDについて」、「思春期と栄養」、「あなたが知るべきこと（当研究グループが作成したパンフレット）」の順で多く見られている。

d. 「パンフレット」 ページの中央に視覚に訴えるものを持ってきて、周期的に更新する。現在は、当研究グループが昨年作成したパンフレットとアップしている。その他、このスペースにアップされた視覚に訴えるものとしては、「日本で売られているコンドームパッケージの写真」、「ブラジル国で作られた若者手帳のカバーページ」などがある。

e. 中央には、様々テキストをアップしている。最新情報や、興味深い話、ブラジルコミュニティで話題になっている話など。この部分は常に更新するように心がけている。

f. 「アンケート」 このコーナーでは簡単なアンケート調査を実施している。現在は「相手がコンドーム使いたいと言ったら、あなたはどのように対応する」についての質問で6の選択肢を設定している。「問題なく受け入れる」から「分かれる」までの段階的な距離感を踏まえた選択肢となっている。この「アンケート」も更新するものであり、過去には「あなたはコンドームを使用する」に対して「いつも」から「しない」の5択スケールのものをアップし、そして、「あなたはHIVの検査を受けたことがある」と言う質問もアップした。

しかし、「アンケート」への参加率は非常に少なく、インセンティブになるものを検討する必要があると考えられる。(図 21)



## 2) 若者のホームページへのアクセス分析：

2009年7月14日に開設したVidadolescenteHPの周知は大々的にはしておらず、ホームページアップ前後にてポルトガル語エスニックメディアにて記事として載せ、また、フリー雑誌にて1回記載したのみである。その他のPRは行っていない。これは、徐々に周知されることによって、ユーザーが一気に多くアクセスした場合、求められているものでなければ多くのユーザーを失うことにつながり、そして、アクセスの分析をしつつ、徐々にHPの改善がしやすくなることを考慮したものである。

また、ピアの参加を重視しているホームページ作成であるため、現在、世界同時不況後、経済的危機におちいているブラジル人コミュニティーにおいては、昨年まで参加していた若者が移動、帰国、退校などをして、密に参加を得られない状況であるため、周知を控えめにしていることが現状である。

ホームページアクセス状況を把握するため Google analytics を使用し、2009年7月19日～2010年3月21日までのアクセスについて分析した。

A. 「総アクセス総件数」は 2,966 件であり、アクセス頻度には月によってばらつきがあるが全体的に徐々にアクセス頻度が上昇していることが分かる。(図 22)

「見られた平均ページ数」は 3.23 ページで、

「平均接続時間」は約 2 分 10 秒であった。

「新しいアクセス率」は約 68% で、平均回覧ページ数は 3.11 ページで、平均回覧時間は 1.46 分であった。そして新規アクセスの動向はほぼ横ばいである (図 23)。

「Returning visitor」は再度 HP へのアクセス率は高く、約 32% であった。そして、平均回覧ページ数は 3.45 ページ、平均接続時間は 2.42 分であった。そして、リターン率が徐々に上昇し、安定的に当 HP をアクセスしている人々がいることが考えられる。(図 24)

図 22 : Vidadolescente ホームページアクセス分析 : 全体のアクセス件数

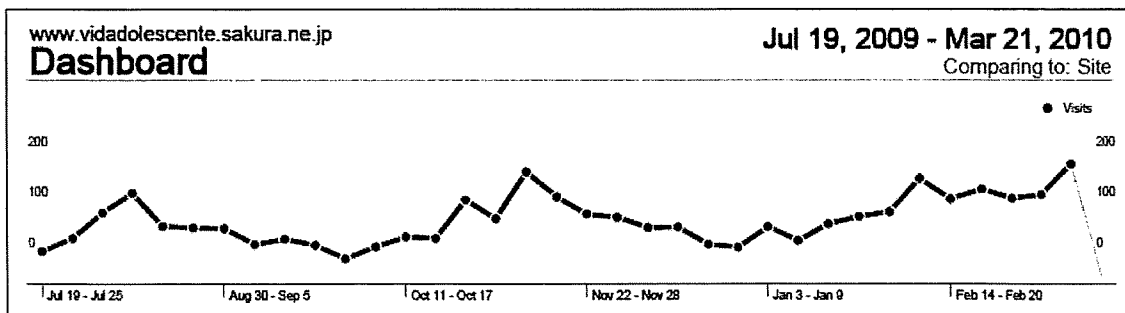


図 23 : Vidadolescente ホームページアクセス分析 : 新規アクセス状況

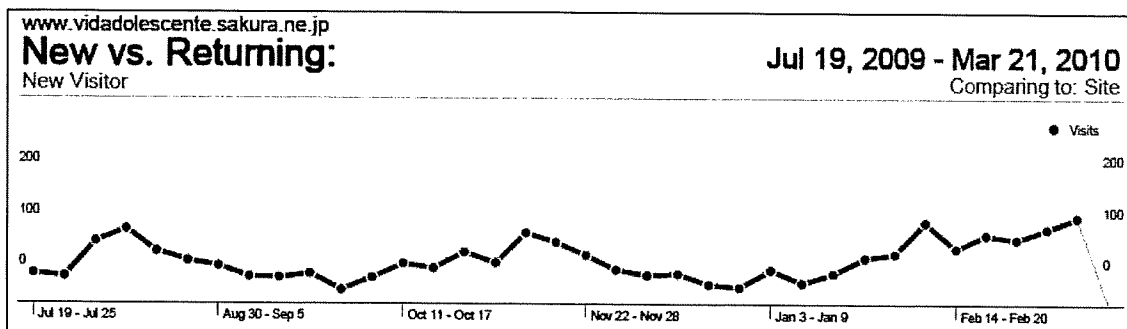
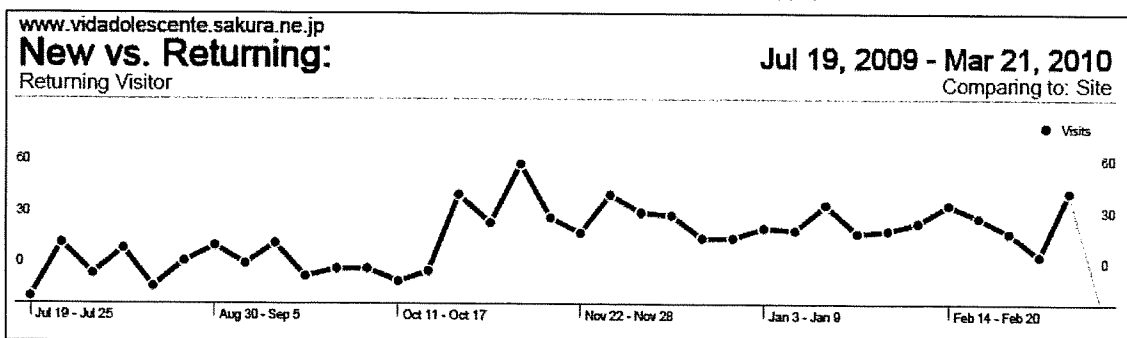


図 24 : Vidadolescente ホームページアクセス分析 : リターン件数状況



B. 「アクセス内容」に関しては、最もアクセスが多かったページは、日本で売られているコンドームの写真が記載したページであった(1,424回)。そして、次に多かったのが「STDの紹介」をしているページであり(519回)、そして、次に同じくSTD関連のページであった(407回)。その他、表6の通りである。

表 6 : Vidadolescente ホームページアクセス分析 : アクセス回数ページの分析

アクセス順位	内容	アクセス回数
1	Tipos de camisinha(コンドームの種類)	1424
2	Conheça os tipos de DST(STDの種類)	519
3	Você sabe o que é DST?(STDとはなに?)	407
4	Nutrição e Adolescência(思春期と栄養)	361
5	Tudo o que você precisa saber!(あなたが知るべきこと(パンフレット))	308
6	Quem pode pegar uma das DST?(STDに感染する人は)	203
7	Teste rápido para o HIV(HIV迅速検査)	191
8	Conheça os principais sintomas e as possíveis doenças (DST)(STDの	141

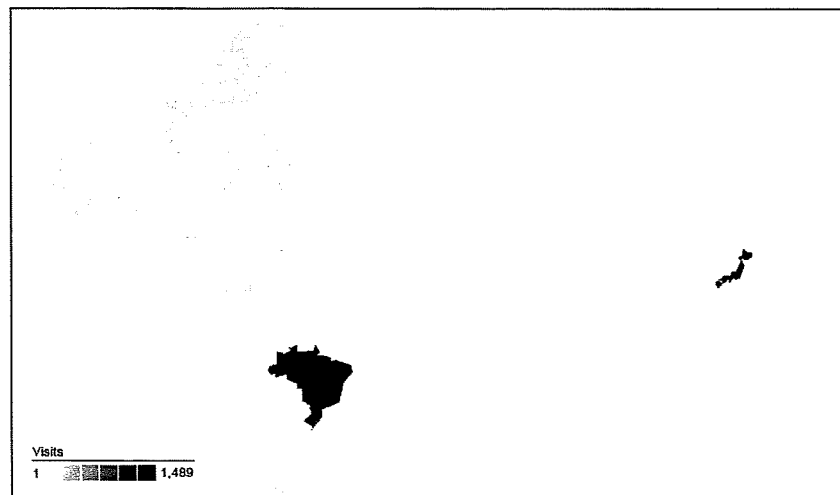


	主な症状)	
9	Você sabia …(あなたは知っている…)	137
10	Cancro Mole 軟性下疳 Nanseigekan	130
11	WebMail	120
12	Você sabe mesmo usar a camisinha ? Faça o teste !(あなたは本当にコンドーム使えるの?テストしよう)	105
13	Sexo seguro na adolescência(思春期におけるセーフターセックス)	104
14	Dias de teste de HIV em Nishi Shinjuku(西新宿の検査日)	100
15	Desculpas(「ごめん…」)	97
16	Welcome to Joomla!	95
17	Condiloma Acuminado ou HPV (Verruga Genital) 尖圭コンジローマ Senkei Kondiro-ma	84
18	Herpes Genital ヘルプス(Herupesu) 性器ヘルプスウイルス感染症 (Seiki Herupesu Uirusu kansenshou)	84
19	Adolescência 青年期 (Seinenki)	82
20	Clamídia クラミジア(Kuramidia) ou 性器クラミジア感染症 Seiki Kuramidia Kansenshou	79

### C. 「アクセス原の地域」

世界 20 カ国からのアクセスがあったが、ブラジルと日本からのアクセスが最も多かった（ブラジル：1,489 回、日本：1,388 回）。（図 25）

図 25：Vidadolescente ホームページアクセス分析：アクセスがあった地域



日本とブラジル以外のアクセスポイントは同じポルトガル語圏国のアンゴラ、ポルトガル、そして、アメリカ、イタリア、フランス、チリ、カナダなどが上げられる。

ブラジルからのアクセスに関しては、「平均接続時間」は35秒で少ないもので、また、「アクセスの平均回覧ページ数」が1.42ページあった。

しかし、日本からのアクセスによる「平均接続時間」は3.46分であり、また、「アクセスの平均回覧ページ数」も5.26ページであり、ブラジルからのアクセスより多い数字になっている。(表7)

表7：Vidadolescente ホームページアクセス分析：ブラジル対日本からのアクセス比較

Country/Territory	Visits	Pages/Visit	Avg. Time on Site
Brazil	1,489	1.42	00:00:35
Japan	1,388	5.26	00:03:46

「日本国内からのアクセス地域」については、平均回覧ページ数が5.26ページで、平均接続時間は3.46分であった。そして、アクセスポイント地域として最も多い順では、東京、保土ヶ谷、渋谷、名古屋、幸（神奈川県）、静岡、川口（埼玉県）、神奈川、浜松、西尾（愛知県）、前橋（群馬県）、岐阜などである。(表8)

表8：Vidadolescente ホームページアクセス分析：日本国内におけるアクセスポイント地域

アクセス順位	アクセスポイント地域	アクセス回数	平均回覧ページ数	平均接続時間[分]
1	Tokyo	415	2.56	0:01:36
2	Hodogaya	199	5.4	0:05:14
3	Shibuya	76	1	0:00:00
4	Nagoya	75	7.88	0:04:26
5	Saiwai	67	8.09	0:04:58
6	Shizuoka	41	9.46	0:04:44
7	Kawaguchi	32	3.41	0:02:09
8	Hodogaya	30	5.03	0:08:01
9	Kanagawa	24	4.5	0:05:48
10	Hamamatsu	24	6.5	0:05:02
11	Nishio	20	4.8	0:04:20
12	Kanagawa	19	2.32	0:01:29
13	Maebashi	17	6.71	0:04:07

14	Yokohama	17	10.71	0:16:23
15	Gifu	15	8.67	0:03:49
16	Hiroshima	15	5.47	0:03:21
17	(not set)	14	6.79	0:06:18
18	Kizuki	14	8.36	0:04:36
19	Urawa	13	5.69	0:04:13
20	Yokkaichi	13	5	0:04:54
21	Kizuki	12	5.08	0:02:25
22	Tsukuba	10	6	0:02:48

### 3) 若者ホームページ — 考察及び今後の課題：

2009年度はブラジル人コミュニティにとっては非常に厳しい1年であったことは報道等から知られている。失業・経済的な困難のなか、健康に関する関心は低下し、さらにHIV感染に関しては、さらに優先順位が低くなることは推測される。しかしながら、このような危機的状況であるからこそ、予防啓発は重要な活動であると考えられる。

当研究グループは常に環境の変化に適応しながらの調査・研究を進めていることが現状であり、今年度はさらにその柔軟性及び、技術が問われた年であるといえる。

昨年度までは、在日ブラジル人の若者がどこにいるかは明らかであり、ブラジル人学校は重要なアクセス場であったが、今年度は以前より増して、流動的になった在日ブラジル人コミュニティの若者へのアクセスは非常に困難なものであった。

しかし、当研究グループが重ねてきた調査結果や経験にもづいて、ホームページ作成への力を注いだ。近年、インターネットの普及により、インターネットを予防介入ツールとして重要な役割を果たすであろう、という考えは持っていたが、今年度は集中的にそのツールの開発に努めた。

結果として、周知がまだ乏しい中、約3千件のアクセスを達成し、また、当グループの対象である日本国内のユーザーにおける接続時間が約3.5分、平均回覧ページ数が5.26ページであることは、アクセスする人は確実に内容を読んでいることが伺えられる。

日本からのアクセス状況に対し、ブラジルからのアクセスは接続時間が短く、また、回覧ページ数が少なかったことは、ブラジル国内では数多くの関連のホームページがアップされているからであることは推測できると考えられる。

そして、当研究グループの調査等で明らかになったHIV関連で不足している情報、例えば「日本国内におけるHIV検査サービス」、「STD関連の知識」、「日本のコンドームは見つけにくい」などについてのテーマへのアクセスが最も多いものであったことから、ユーザーのニーズに適した情報がホームページ上にアップされていることが考えられる。

しかし、日本におけるブラジルコミュニティの若者を環境はまだ厳しいものであるに違いない。また、インターネット上では日本国内のブラジル人同士のネットワークコミュニティ、出会いを求めるサイトなどが数多く存在することが事実である。

このような環境の中、より積極的にコミュニティへアプローチする必要性があり、今後の課題としては次のことが挙げられる：

- 1- ピアによるフォーラム参加への呼びかけをする
- 2- 若者が集まる場所にてホームページ情報記載のカード式ペーパーメディアにおけるの宣伝の実施
- 3- ピアにおける人材獲得の拡充
- 4- HP 上でのアンケート調査の充実
- 5- 日本におけるブラジル人若者をネットコミュニティに直接介入する方法を探り、予防のメッセージの浸透に努める

など、HP を生きたものとして継続的に更新し、新しい魅力を常に検討、アップする必要がある。

そして、HP を通しての介入効果を測るツールの作成、評価することが 2011 年度の課題となる。

---

---

#### 4) 大人向けのホームページ目的・方法：

セカンドオーディエンスである大人向けのホームページは、当研究グループが所属する NPO 法人のホームページを兼ねて作成し、予防・相談・支援の 3 つの視点を考慮しながら作成されている。

当研究グループも参加していた、旧社会疫学研究班における調査・研究を基に、提供する情報を選択した。大人用のホームページ作成には、NPO 法人 CRIATIVOS のメンバーが参加し、作成に当たっている。

NPO 法人 CRIATIVOS は、日本国内で唯一のポルトガル語・スペイン語によるエイズのテーマに特化した団体であり、予防のみならず、相談及び支援も実施している。

そして、日本在住のブラジル人コミュニティを対象に HIV 関連の予防に関する情報を提供し、普及や効果に関する評価を研究班にて行って来た。しかし、予防情報提供の手段としては主にペーパーメディアを通じてのものであった。

2008 年末から始まった世界同時不況により、前記にも述べたように、在日ブラジル人コミュニティが大きく変化し、ペーパーメディアの役割が問われるものになり、また、移動を繰り返すブラジル人にとっては、インターネットは重要な情報獲得手段であるといえる。